

## 隠れキリシタンと文殊様のお祭り

西村 不可止

萩市紫福は私が生れ育ったところ。人口は一九五〇年には約三千二百人いたが、現在は約九百五十人。私も引き算している一人だ。

この地区はある時期全村民キリシタンと言われていたそうで、隠れキリシタン遺跡があちこちにある。私の祖先もそうだったのか。

そのひとつに仏光寺がある。境内に入ると隠れキリシタンの墓碑といわれる七基が整然と並べられている。説明板によると最近ここへ移転したと書いてある。その内の一基は元禄七(一六九四)年の銘がある。この左右三基は手を交差させた独特の石造であることからして、墓主は生前、隠れキリシタンだったのが容易に察しがつく。キリシタン禁教令から約八十年余り後。少なくとも三世代は経ているはず。ここまでの歳月、この地ではキリシタン信仰が続いていたのだ。しかしそれを裏付ける古文書は一切ない。伝承のみだ。

その他、仏光寺には山口県有形文化財の木造文殊菩薩騎師像が安置され、私が小学生の頃には春秋のお祭りが随分と賑わっていた。

私も五十円をしっかりと握り締め、露店の粟おこしや紙火薬のおもちゃを物色していた。私には隠れキリシタン遺跡というより、「文殊様のお祭り」としての記憶しかない。